

例会記事

九月例会 九月十七日 (土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

- 一、オランダで採訪の二、三の史料について 片桐 一男
- 一、アメリカ人医師

Simmons, Duane B. の事績をめぐって—特に福沢諭吉との
関係について— 大鳥 蘭三郎

- 一、緒方家本「和蘭詞解略説」について 沼田 次郎

- 一、リンデン伯「日本の想い出」長崎文献社・復刻・一九八三
の紹介 緒方 富雄

十月例会 十月十五日 (土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

- 一、文献にみる前野良沢と杉田玄白 酒井 シヅ
- 一、前野蘭化と杉田玄白 緒方 富雄

十一月例会 十一月二十六日 (土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

- 一、跡見玄山と適塾 田崎 哲郎
- 一、日本のインタン制度 山本 俊一

例会講演要旨

オランダで採訪の二、三の史料について

片桐 一男

一九八一年四月から翌年の四月にかけて一カ年オランダに在外
研究の間、採訪した語史料のうち二、三についての紹介。

I Algemeen Rijksarchief (中央古文書館)

ハーグ市の中央駅に隣接して開館した白い新館に、まる一カ年
閲覧に通い続けることのできた日本人研究者としては、私が初め
てか。

ここでは、周知の通り、日本におかれたオランダ商館関係文書
をはじめ、商館長として来日した Jan Cock Blomhoff や Hend-
rik Doeff あるいは船長として来日した P. Bezemer などの個人
コレクションにかかる古文書をみるのができよう。

オランダ商館文書は M.P.H. Roessingh の編纂にかかるカタ
ログ Het Archief van de Nederlandse Factory in Japan 1609 ~
1860, ³Gravenhage 1964. の整理番号で、そのまま請求できよう。
商館文書はすでに東大史料編纂所にマイクロフィルムが将来を
れており、独自の目録も刊行されている。しかし、ここではマイ
クロ撮影による焼付では判読しにくい点のみられる文書をえらん
で紹介した。

1 No. 1639. Ingekomen stukken, Met bijlagen の中
Het Sein van Schip in het aanstande jaar 1857 varende

という、長崎来航の蘭船が高錚島のところで受ける旗合せの際の秘密信号旗に関する「来次一八五七年航行船の信号」と題する図入り文書。指示の文面は、

Zoodra men meent dat Schip of Schepen in het gezigt van het Japansche rijk zijn, moet men de Sein Vlag, gelijk afteekening, op de fokkemast laten waaijen, en S'avonds lantaarn, zoo als afteekening op dezelve mast hangen.

船が日本帝国の視界に入ったと判断したらすぐ、図のような信号旗を前樁上に掛けなければならず、また晩には図の如き角燈を同じ樁に吊さなければならぬ。

とあり、図をみると、旗は白・赤・白の三段に染め分けられてあり、その大略が

Lange Circa 2 jkjes 長約二間
 Breedte Circa 1 jkjes 幅約一間
 hoogte Circa 2 voeten 高約二フート
 とある。

本文書は『鎖国時代対外応接関係史料』（近藤出版社、昭和四十七年刊）の参考史料として紹介した秘密信号旗の例に新追加できるものである。詳細な考証は拙稿「長崎入津蘭船の秘密信号旗に関する新史料」（『洋学史研究』第一号）に譲る。

2 No. 1750. Opgegeven Nicuws, facturen & Monsterrol 1845. 命令及びその Verpraatbrid 検問書類。

この文書は、長崎来航蘭船が高錚島のところで旗合せの後、奉行所の派遣した検使船に対して回答せねばならなかった検問

書類で、当時の日本側文書にみえる「イノ印」書簡というものである。（『鎖国時代対外応接関係史料』参照）
 マイクロフィルムや写真ではわからないが、文書はタテに二折りに折れており、文面は次の通りである。……線は折り目を示す。

De gezagvoerder van het aankomende schip wordt uitgenoodigd, de hier ter beahtwoording volgende vragen in te vullen en daarna aan den brengeu Nann van het Schip Groote van het zelve? Naam van den gezagvoerder? Naam van de gouvernement's ambtenaren en passagiers?

G.P. Borst // Pakhuismeester
 P.G. Lange Assistent
 J.A.G.L. Barslé berd——. Pakhuismeester
 F.C. Lucas, Pakhuismeester
 J.C. Delprat, Pachter
 L.S. Biederde
 den 30 Juny 1845

Wanneer van Batavia vertrokken?
 of er nog meer Schepen komen?
 Zooja, hoegenaad en door wie getoerd?

Namen der Gouvernements

ambtenaren en passagiers

die zich aanboord van hetzelfde

bevinden.

Geen nieuws van welke aard ook zal meerder hier

mogen worden ingevuld, noch aande Japanners beke-

nd gemaakt, terwijl ingevolge de van de Hooge Regering

op Java ontvangene orders, onder den Papenberg moet

worden geankerd, en om geene reden hoe ook gena-

amd Zonder verdere aauzeggung mag worden opgezaild.

Desima, July 1845

Het Opperhoofd van den Neder^o

landschen handel in Japan,

J. A. Bik

来航船に対して、あらかじめ商館長ビクによつて作成されてい
た文書であつて、ゴチック活字の部分が出来航船デンヘルスホウ
ト号の船長ライケンによつて記入されて、回答された別筆の部
分である。(参照、前掲書)

3 No. 1454 (Diversen handel) 1833. 1 pak. の中の b)

Opgeveene Facturen en Monsterrol 1833. G. A. G. Monste-

rol は鹿児島大学図書館春敷文庫所蔵『阿蘭陀船乗組人数名歳

并諸荷物書留』所収の「阿蘭陀船乗組人数名歳」とよく対応・

一致し、この種の典型例である。詳細な紹介・考証は、拙稿

「蘭船の乗船員名簿と阿蘭陀通詞」(『日本歴史』四二三号、昭

和五八年八月) 参照。

4 No. 1749. Opgegeven nieuws, Facturen en Monsterrol 1844.

この中には

• Opgave van het nieuws 之題トシテ Desima, 30 July 1844

Het Opperhoofd. の風説書がある。(『和蘭風説書集成』上・

下巻) 吉川弘文館発行。(参照)

• Factuur van goederen welke verzonden zyn naar Japan

met het Nederlandsch Schip Stad Tiel, gezagvoerder E. M.

Chevalier. オランダ船スタト・ティール号、船長シヤンリ

ール。によつて、日本へ送られた積荷目録。

参照、山脇悌二郎「スタト・ティール号の積荷——江戸時代

後期における出島貿易品の研究——」(『長崎談叢』四九輯)。

なお、拙稿「来航蘭船スタト・ティール号の積荷目録と阿蘭陀

通詞」を留意してゐる。

• Monsterrol van het Nederlandsch fregatschip de Stad Tiel.

オランダフレガート船スタト・ティール号乗船人名簿。

の三種類の文書が一括して入っている。風説書・積荷目録・乗

船人名簿が揃っている典型例の一つである。

5 長崎会所の丸黒印・角黒印、年番訳司の丸朱印、和蘭訳司の

丸朱印の紹介。

関連してブリティッシュ・ライブラリー所蔵シーボルト・コ

レクション中の「長崎会所加役割」に言及。詳細は拙稿「ブリ

ティッシュライブラリー所蔵『長崎会所加役割』について」に

譲る。(『長崎談叢』六十八輯掲載)

II Rijksmuseum voor Volkenkunde 民俗博物館

ライデンの民俗博物館にはシーボルト、プロムホフ、フィッセルの各コレクションなどがある。そのうちから二、三の紹介。

- 1 [I-4396] 桂川甫賢「人面瘡図説」木版刷二点。うち一点には甫賢自筆による淡彩色が施され、日付と署名の蘭訳が付記されている。

詳細は本誌次号掲載拙稿「ライデン民俗博物館所蔵、桂川甫賢『人面瘡図説』について」参照。

- 2 [I-4393] Eenige aantekeningen nopens de Honing Byen, door M. Tok'nai

蜜蜂に関する若干の記述 最上徳内

最上徳内の本作品は従来学界に紹介されることがなかったものの。写真を添えて、拙稿「最上徳内作『蜜蜂に関する若干の記述』について」を用意している。

- 3 [578 No. 63] 丁卯萬國普通曆 慶応二年丙寅十月

司天官 渋川敬典謹考

これは慶応三年分の曆であるが、加うるに蘭文で Almanak in het jaar 1866 即ち慶応二年分の曆が N.R. Araki なる人物によって記載されている。因に『國書總目録』による限り、渋川敬典の編になる萬國普通曆は安政四・五・六・万延元の各年度分しかしられていた。

- 4 [I-4646] KALIBO ZUJ, Toow Komoli, der medicijnen

Doctor te miao, 淡彩自筆の小森桃塙「解剖図」である。

(一九八三・九・一七、日本医史学会・蘭学資料研究会 合同例会 発表)

緒方家本「和蘭詞解略説」について

沼田次郎

本書は緒方洪庵のオランダ語学関係の著書の一つで、現在緒方富雄氏所蔵本が唯一の完本であろうと思われる。写本、一冊、堅一四センチ横二〇センチの小型横長の袋として丁数二二丁の小冊子である。但し本書も洪庵の自筆ではなく後年緒方家で入手された写本である、という。伝本きわめて少なく、杉本つとむ博士がその大著「江戸時代蘭語学の成立とその展開」IIの中に指摘されたように東京大学付属図書館に「客窗漫筆」という写本があり、その中に本書の巻首の部分が九丁にわたって収められている。その他に図書総目録によると広島大学・正宗文庫に夫々一本を有するが前者は焼失、後者は現存するかどうか明らかでない。

本書の内容について簡単に述べると、本書はオランダの品詞について解説したものである。まず「詞類」として名詞・陪名詞・数詞・代名詞・動詞・副詞・冠詞・前詞・統詞・感詞の一一品詞のあることを説き、次いで夫々についてその性質・用法・変化等について説明している。恐らくは当時用いられた文典類から訳出しまとめたものであろう。緒方家本の表紙には「万延元年喜多山祐吉先生所贈 土屋裕□」と記されており、本文冒頭には「緒方家公教訳述」とある。その他に成立の年次などについて手掛りとな